

<p>児童の実態</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年や中学年の英語活動では、ゲーム的な活動が中心で意欲的に活動に取り組む児童が多い。また、実際にALTなどネイティブの方と話すことにも興味・関心をもっている。 ・教科としての英語になる高学年は、単語や構文を覚える必要があり、苦手意識をもつ児童が多い。 ・授業の中でよく使用される言葉（挨拶や活動を指示する言葉）は、児童が内容を想像して行動していることが多い。質問に関しては、ジェスチャーから想像して答えていることが多い。 ・高学年になるにつれ、全体の中での一対一の会話、児童同士での会話、1人でのスピーチに恥ずかしさを感じるのか、消極的な児童が増えていく。 		
<p>授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>視点1 上二小授業スタンダードの徹底</p>	<p>視点2 読み解く力の育成</p>	<p>視点3 「探究の時間」またはその他の教科との連携</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての提示と振り返りで学習内容を確認する。 ・教員が意図的に決めたペアや、児童が自由に決めたペアなどで伝え合う場を設定し、英語に親しんで学習出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指示語（This He など）は、対象物（人）を指し示しながら確認することで、話している内容を児童が理解しやすくする。 ・今まで習った英単語や構文をゲーム的な活動を通して復習することで、内容を児童が聞き取ったり、話したりしやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化が分かる映像などを視聴し、日本と似ているところや違うところを見付け、他国への興味関心を高める。それが「探究の時間」の国際理解分野（3年生の「オリ・パラについて学ぼう」5年生の「SDGsについて知ろう」）や、国語科での伝統文化や調べ学習につながる。また、社会では5年生では国の学習、6年生の歴史の中での諸外国との関係への興味関心を高めることにつながる。
<p>その他授業改善に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年では、ゲーム的な活動も取り入れながら、身に付けるべき英単語や構文を学べるようにする。特に書く活動を毎時間取り入れて、基礎的学力を身に付ける。 ・Chromebookのアプリケーションを活用して、ビンゴゲームや道案内ゲームを活動に取り入れたり、教員のSmall Talkやあいさつなどで画像を見せながら話したりと、ICTを活用することで、意欲的に児童が学習に取り組めるようにする。 ・近隣の中学校児童と会話の機会を設けるなど、内容を相談して、小中連携できそうなものはしていく。 		

